

みんなでつくろう！ “仕方がない”の無い医療を

一般社団法人CSRプロジェクト

桜井 なおみ（一般社団法人CSRプロジェクト）
info@cansol.jp

診察室でよくある会話



3

筆頭演者の利益相反状態の開示



	該当状況	企業名等
企業の役員・顧問職	あり・なし	がんサーソリューションズ株式会社 代表取締役社長
株式	あり・なし	
特許使用料	あり・なし	
講演料等	あり・なし	
原稿料等	あり・なし	
研究費	あり・なし	
その他の報酬	あり・なし	

それ、仕方がないんだよねー

仕方がないんだよねー

仕方がないんだよねー

仕方がないんだよねー

仕方がないんだよねー

仕方がないんだよねー

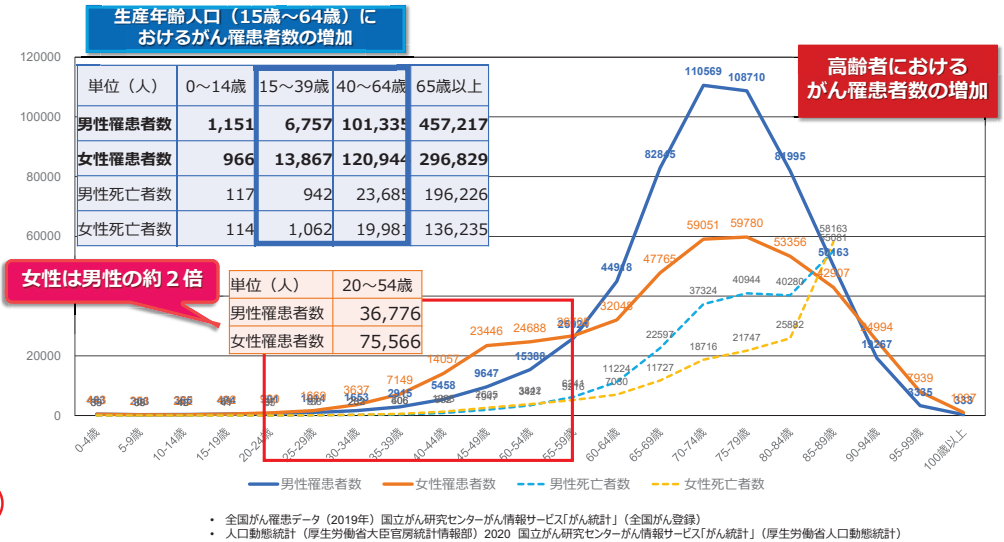
仕方がないんだよねー

本当に仕方がないんですか？

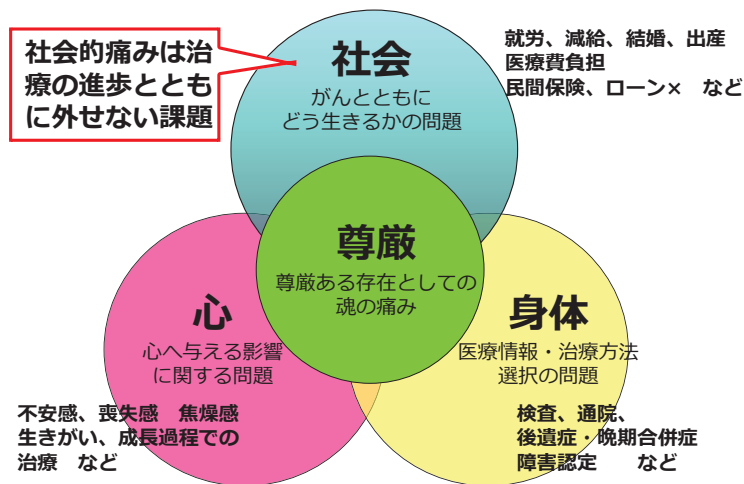
1 治療の進化と生活



日本人のがん罹患患者数・死亡者数



がん経験者が直面する4つの痛み

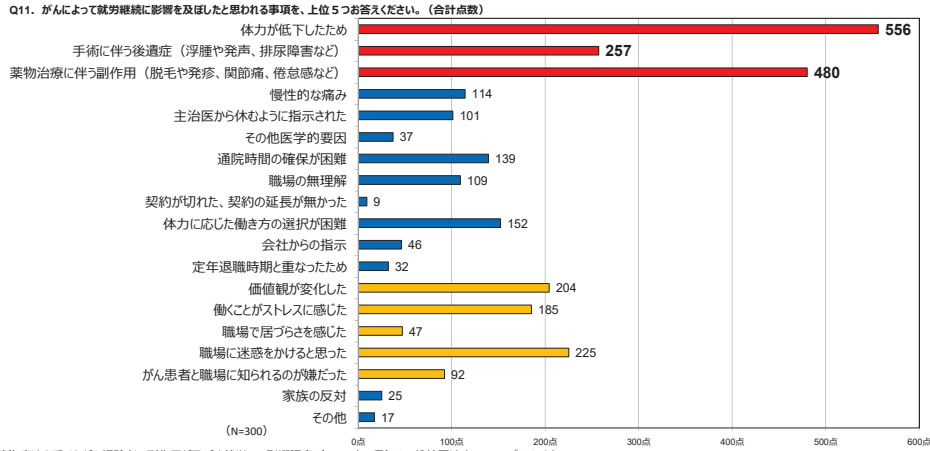


薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査

- 目的と対象：がん罹患時に就労をしていた薬物療法を受けたがん患者（診断から10年以内）を対象に、薬物療法の副作用が及ぼした就労への影響を把握する。
- 調査項目：国立がん研究センター・野澤桂子先生らによる「抗がん剤治療による外見変化と患者さんのQOLに関する研究アンケート」51項目を34項目へ統合、評価指標とした。・副作用スコア=かなり影響：3点、影響：2点、少し影響：1点、影響なし：0点
 - ・副作用期間スコア=1週間以内：1点、1週間～1か月未満：2点、1か月～3か月未満：3点、3か月～6か月未満：4点、6か月～1年未満：5点、1年～2年未満：6点、2年以上：7点
- サンプル数：300名（うち、個人事業主・役員34名）
- 調査方法：インターネット調査
- 調査実施期間：2018/3/16（金）～2018/3/21（水）
- 実施機関：一般社団法人CSRプロジェクト
- 助成金：EFPIA PASE AWARD

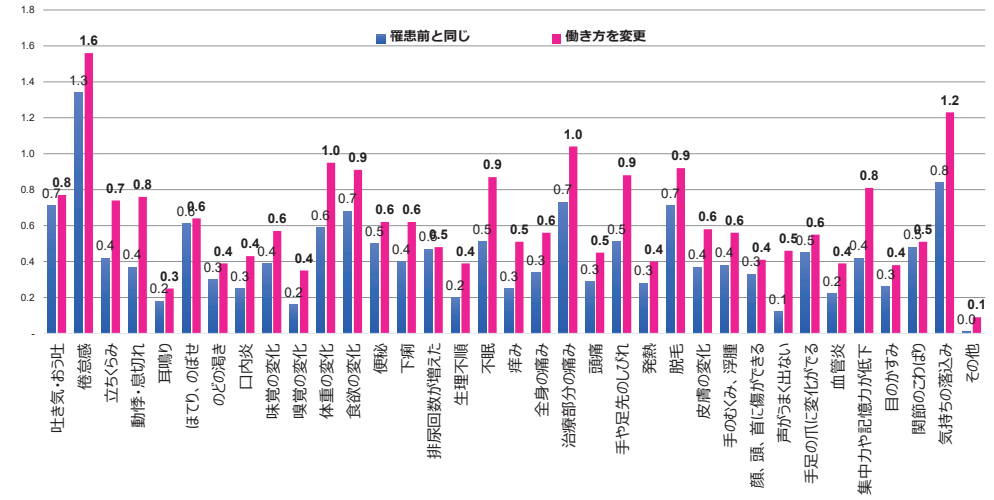
薬物療法経験者の就労継続に影響を及ぼした事項

就労継続に影響を及ぼした背景要因の第1位は「体力低下」、第2位は「薬物療法に伴う副作用」、第3位は「術後の後遺症」、第4位は「迷惑をかけたと思った」、第5位は「価値観が変化した」。



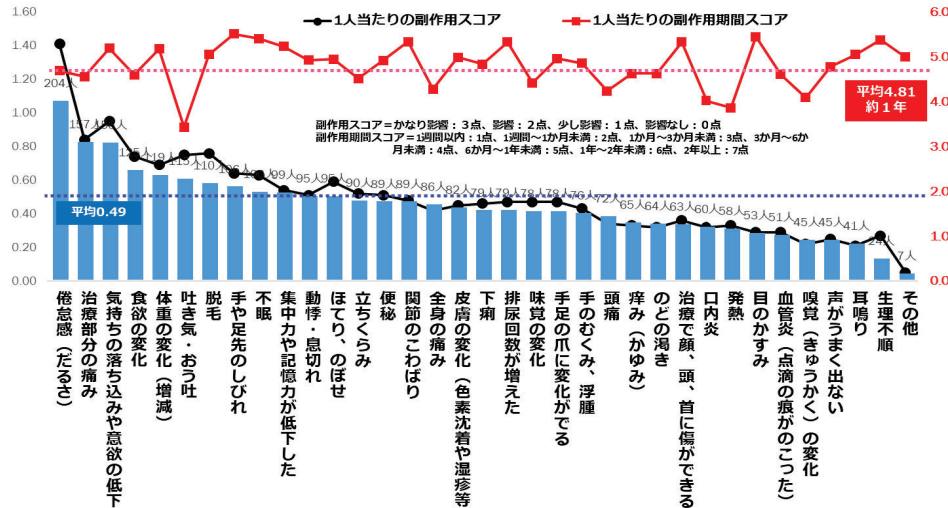
出典「薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査(2018年3月)」一般社団法人CSRPプロジェクト

副作用のつらさと就労継続の状況



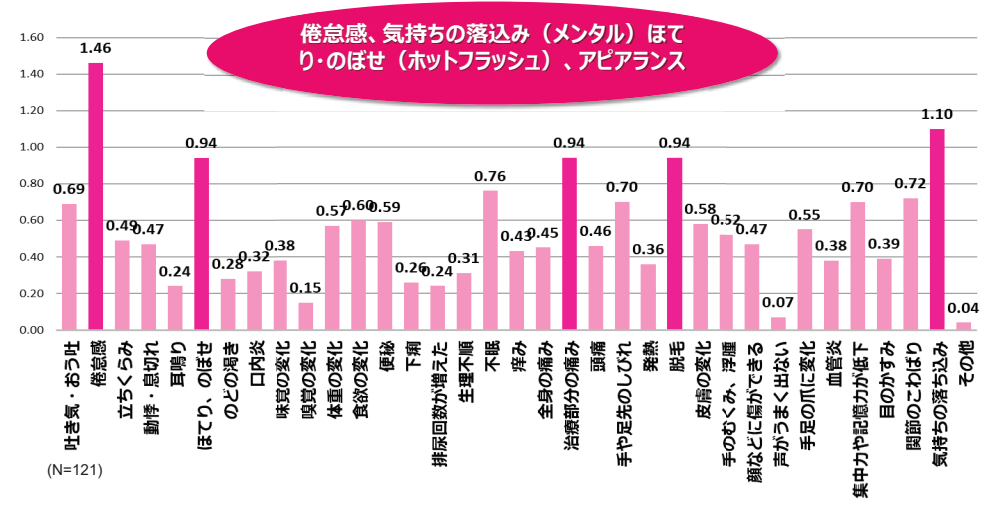
出典「薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査(2018年3月)」一般社団法人CSRPプロジェクト

副作用のつらさの深さと長さ



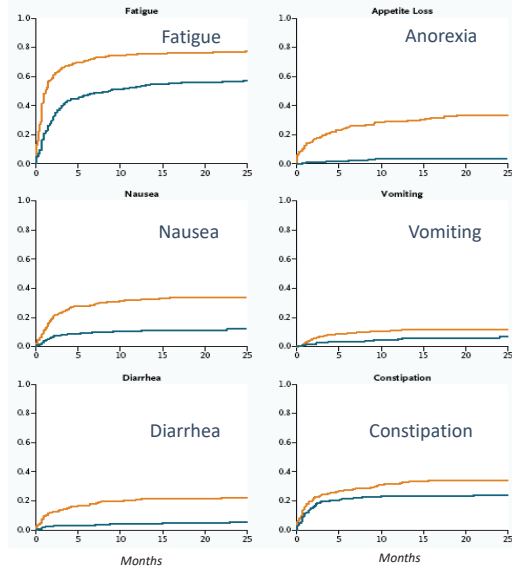
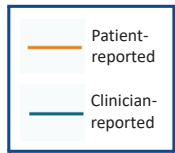
出典「薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査(2018年3月)」一般社団法人CSRPプロジェクト

就労に影響した困りごと(乳がん)



出典「薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査(2018年3月)」一般社団法人CSRPプロジェクト

医療者の評価は患者の評価より低い
評価にはかい離がある。



13

Basch: NEJM, 2010

② 解決に向けた一歩



1 知識の普及、地域間格差の縮小

2 支持療法研究の推進

3 患者市民参画の推進

15

1) 知識の普及、地域間格差の縮小

第5回 研究成果報告会
患者・市民とともに J-SUPPORT
～支持・緩和・心のケア
2023年10月15日

私たちが日本人患者さんのQOL向上を目指し、支持療法（院内療法、心療内科療法、リハビリテーション療法）がん予後薬（副作用の軽減）の研究を進めてきました。第5回となる今回はJ-SUPPORT臨床FEdAを通じて患者、家族、癌友・支援者（Nurse and Family Support team）癌友・家族・癌友・支援者などの視点からディスカッションを。

お申し込み方法
こちらからお申し込みをお願いいたします。 <https://www.j-support.org/>
お申し込み用紙ダウンロード: <https://www.j-support.org/>
お申し込み先
J-SUPPORT 研究推進委員会事務局 j-support_research@ncc.go.jp

お申し込み先
J-SUPPORT 研究推進委員会事務局 j-support_research@ncc.go.jp

J-SUPPORTとは
がん予後薬、緩和ケア、心のケアに関する多職種共同研究を推進する臨床研究グループです。開催は下記URLもしくは03-6440-1100 <https://www.j-support.org/>

主催者
J-SUPPORT 実行委員会 事務局 (2024年10月15日開催) 事務局: 金田 潤子 (東京がん臨床研究センター/中央総合病院) 事務局: 中野 洋子 (国立がん研究センター/中央総合病院)

協賛
国立がん研究センター/中央総合病院 腫瘍科

J-SUPPORT 成果のまとめ
内覧 報告 (J-SUPPORT 報告書)

閉会挨拶
中野 洋子 (国立がん研究センター/中央総合病院)

交流会
J-SUPPORT 事務局と患者さんとの交流
テーマ:「あれこれ言いたい!」 支持・緩和・心のケア

「手の爪のふちが真っ赤になっている。指先が痛くなり、ボタンのかけはずし、ペットボトルを開けることができない」「足の裏にマメができ、小さな傷や湿疹などが腫れ上がり、とびあがるほど痛くて歩くのに支障が出る」「数クール繰り返しているうちに休業時の回復にかかる時間が少しずつ長くなっている気がする」。

さらに、「痛み部分には2パターンある」と、自己分析もされていた。

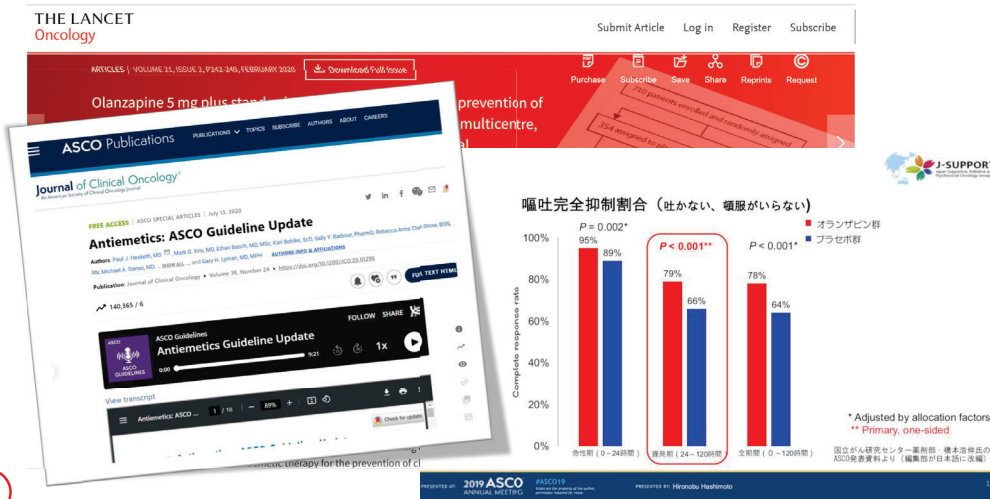
「まず、日常的に力がかかる部分。マメのような状態になり、出現場所によっては非常に痛く、歩くのが困難。これは休業期間中に大方回復して、出現場所も変わる」もうひとつは擦れる部分。皮膚が炎症を起こしてヒリヒリした痛みで、ひどくなるとズキズキと痛み、じっとしていてもつらい。こちらのほうが回復に時間がかかる。服用を再開すると同じ場所が悪化する感じ」。



16

J-SUPPORT 研究成果報告会ホームページより <https://www.j-support.org/events/meeting/index.html>

2) 支持療法研究の推進



J-SUPPORT研究成果報告会ホームページより <https://www.j-support.org/events/meeting/index.html>

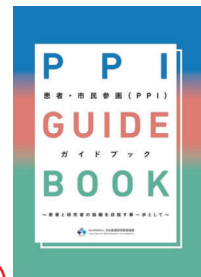
自分と他人の認識のズレを理解する ジョハリの窓



3) 患者市民参画の推進

AMEDでいう「医学研究・臨床試験における患者・市民参画」とは、医学研究・臨床試験プロセスの一環として、研究者が患者・市民の知見を参考にすることとする

※患者・市民：患者、家族、元患者（サバイバー）、未来の患者を想定

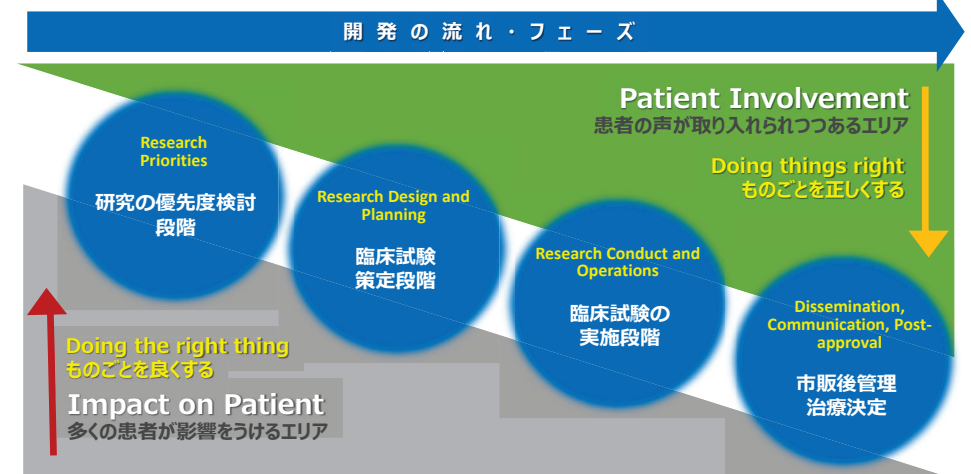


- (医学研究・臨床試験における患者・市民参画を進めることにより実現されること) 患者等にとってより役に立つ研究成果を創出する
- 医学研究・臨床試験の円滑な実施を実現する
- 被験者保護に資する (リスクを低減する)

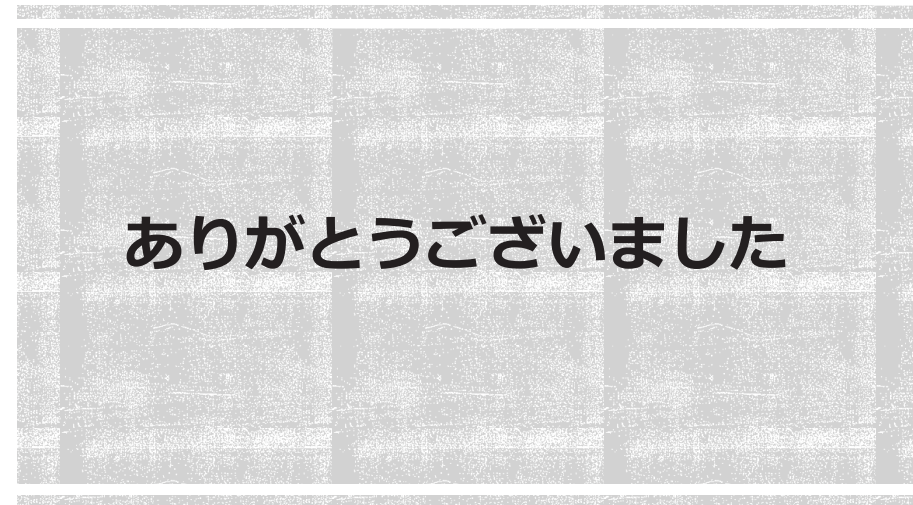
出典：「患者・市民参画 (PPI) ガイドブック」国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

創薬・医療機器開発でのPPI

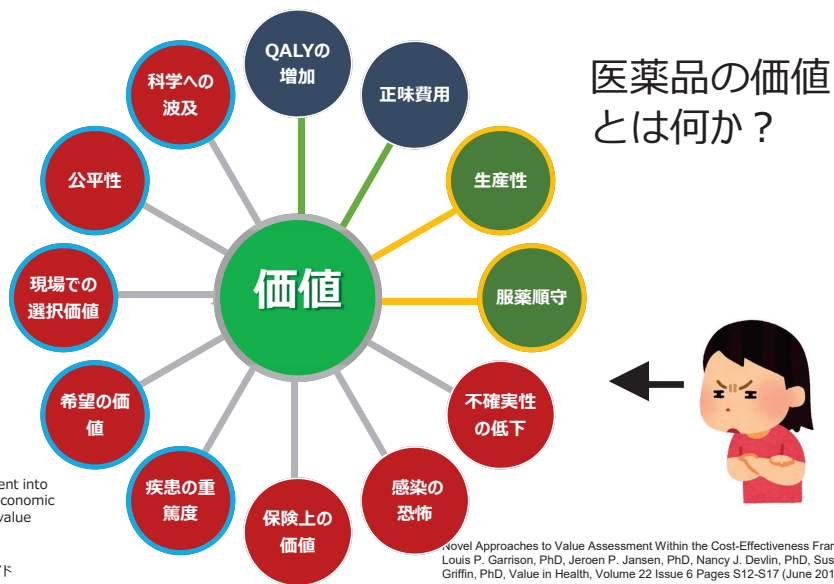
非臨床段階での患者参画は、研究計画の策定後や、薬剤ができた後からの参画より、大きな影響を与えます。



③ 医薬品の価値を支える



ありがとうございました



Map each element into an underlying economic framework for value assessment

Novel Approaches to Value Assessment Within the Cost-Effectiveness Framework.
Louis P. Garrison, PhD, Jeroen P. Jansen, PhD, Nancy J. Devlin, PhD, Susan Griffin, PhD, Value in Health, Volume 22 Issue 6 Pages S12-S17 (June 2019)